

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」
活動テーマ	東日本大震災被災地生活基盤再生のお手伝い活動



日本は災害国といわれる通り、毎年のように災害による被害と戦っている。私たちは、どこで何が起こっても対岸の火事とせず「明日は我が身」と受け止めて、できる範囲で支援する活動を重ねてきた。2011年3月に東日本大震災が発生し、大津波により福島第一原発が爆発し未曾有の大惨事となった。これこそ他人ごとよそ事ではない。なぜなら我々が暮らす滋賀県高島市は、山一つ越せば若狭湾沿いに並ぶ原発施設群があるからである。ボランティア活動地を放射能災害地域である福島県小高地区を選んだ理由もここにある。ボランティアセンターとのつながりの中で、6年間に12回の労力支援を行ってきた。活動開始から3年ほどは半年に一回のペースで訪れても、風景に変化がなかった。津波によって打ち抜かれた家々が柱だけで建っている、船や車が田んぼの中に放置されている。その一方で、除染作業中の旗を立て、行くたびに除染土の詰まったトン袋だけが増えていく眺めであった。その中で、近い将来わが家へ戻ろうとする人の住居敷地内の整備依頼を中心とするボランティアニーズが増えていった。私たちは、この地がどのように復興に向かっていくのかを見ておく義務のようなものを感じながらお手伝いをしてきた。2015年7月に避難指示が解除されたことによってようやく、生活者が戻ってくることを意識した活動に切り変わったように記憶している。自分たちがお手伝いに関わった家に暮らしの気配を感じた時はさすがに嬉しい気持ちになる。この活動の成果は何かと問われると、即答できないもどかしさがある。活動の到達点が決められていたらいいのと思う。今後は被災地を見まもっていくことも支援の継続と考え、いつかここで活動したボランティアの成果の結集が、復興という形で見られることを期待している。